キャラクター名
桜華　陽菜　（さくらか　ひな）

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ノイマン	ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢		性別	
覚醒	無知	衝動	自傷	初期侵食率	31 %
出自	疎まれた子	経験	心の壁	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	0	0			2
感覚	0	0	1			1
精神	4	1	0	2		7
社会	2	0	0			2

HP	31
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	5		交渉		
回避	1		知覚			意志	3		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
氷炎の剣	白兵	2r-2	6	7		ＳＬ＋6の攻撃力

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
エキストラ	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス　究極のｾﾞ	P	N		
葉月怜奈	P　甘え	N 劣等感		
山田	P　信頼	N　恐怖		
ニコル	P 好奇心	N　嫌気		
支部長	P　遺志	N 不信感		
木崎	P 幸福感	N　嫉妬		
あまかずまさや	P　尽力	N　恐怖		

最大財産P:　4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	3	メジャー					
効果：ダイス＋３　値をＳＬだけマイナス								
氷の塔	5	3	メジャー	視界	範囲（選択）	ＲＣ	シーン1回	
効果：攻撃力＋（ＳＬ×３）で攻撃								
ブリザードブレス	1	3	メジャー	視界	範囲（選択）	R		
効果：ダイスー３　ＳＬ＋攻撃力で攻撃								
灼熱の弾丸	1	1	メジャー	視界		R		
効果：攻撃力＋ＳＬ＋２の攻撃								
終末の炎	1	2	マイナー	自身		自動	80↑	
効果：ＳＬ点まで好きなだけＨＰをい、払った分だけダメージ増加								
生き字引	2	2	メジャー			意思		
効果：ダイスをＳＬ個＋　すべての情報判定の代わりに使える								
氷炎の剣	1	3						
効果：武器を作り出す　下記参照								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

PC1 ロイス：葉月怜奈　推奨感情　P/N：懐旧/隔意
カヴァー／ワークス　高校生/指定なし
葉月怜奈は君の幼馴染だ。3年ほど前に彼女はこの町を離れたが、偶然とある思い出の場所で再会を果たした。
久しぶりに話す怜奈はどこか憂いのある表情を見せる。君の知らない3年の間に、怜奈に一体何があったのだろうか？

私はもともとお金持ちで、純和風のお屋敷に生まれた、その家は先祖代々オヴァードを嫌っており、物心ついたころからオヴァードだったかのじょは
自らの異能に激しいコンプレックスを持っていた

そんな私は学校でも友達を作ることなく、ひたすら地味で勉強だけが取り柄の女の子を演じていた、成績もよく、先生の手伝い、係りの仕事などを従順に
こなしているため、教師には良く褒められたが、私は「化け物が人間のふりして、ほめられてる・・・愛されてる、私なんて・・・」と思い
褒められれば褒められるほど傷ついていった

そんなある日、いつものように片隅でむつかしい本を読んでいると声をかけられる　その子の名前は「葉月怜奈」その日、初めて友達ができた
友達ができてからはうれしかった、毎日がキラキラと輝いて見えた、しかし人をだましているという劣等感もまた、日に日に増えていった

私は決心した、私の異能のこと、謝ろう・・・私が化け物だって言って、葉月さんとの中もこれっきりにしよう　寂しいのも劣等感も辛いけど
お友達をだますのはもっとつらい・・・明日、葉月さんに謝ろうとかんがえた次の日、朝礼にて葉月さんが引っ越したと教師から一方的に告げられる

私がugnチルドレンとなったのはその日から約7日後だ、

「私は葉月さんに謝りたいのです、お友達にうそをついていたことを謝りたいのです、それができなければ人類とオヴァードの共存が実現しても私と人類のオヴ